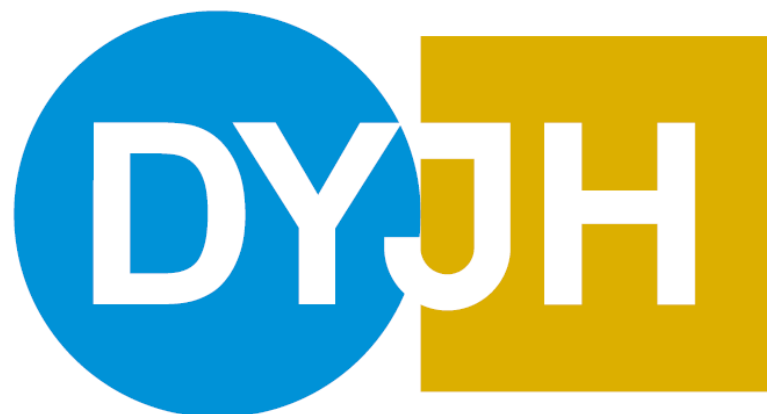




ダイナムジャパンホールディングス

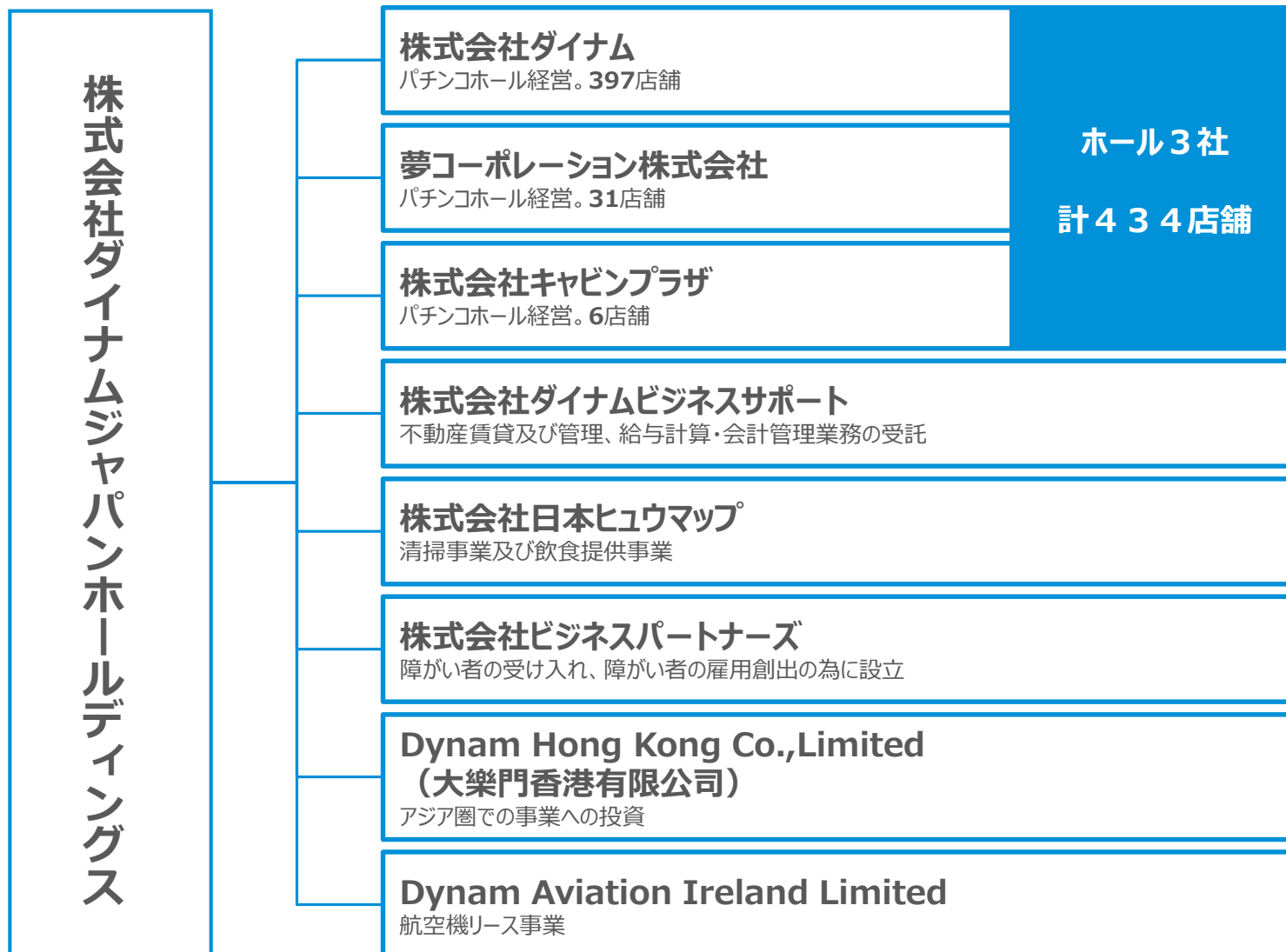
2024年3月期 中間決算説明会
(参考和訳)

2023年11月28日

【目次】

1. 中間期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 中間期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

DYJHグループ企業組織図（2023年9月30日現在）



【目次】

1. 中間期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 中間期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

1. 中間期業績ハイライト①（グループ連結）

（単位：百万円）

	当中間期	前中間期	増減	前中間期比
営業収入	64,375	56,195	+8,180	114.6%
営業利益	4,400	3,881	+519	113.4%
中間利益	1,874	1,183	+691	158.4%

営業収入は、パチンコ事業においてスロット収入が「スマートスロット」の導入拡大を契機に大きく伸長し、大幅な増収を達成。
営業利益、中間利益についても、遊技機償却費の増加を吸収し増益で着地。

2. 中間期業績ハイライト② (基幹会社ダイナム)

(単位：百万円)

	当中間期	前中間期	増減	前中間期比	概要
営業収入	58,513	51,905	+6,608	112.7%	パチンコ + 52(100.1%) スロット +6,312(146.1%)
機械関連費用	17,942	12,318	+5,624	145.7%	遊技機償却費の増加
人件費	17,005	17,469	▲464	97.3%	店舗運営人件費の削減
水道光熱費	3,611	3,289	+322	109.8%	電気料金の高止まり
修繕費	1,712	1,029	+683	166.4%	スロット増台に伴い店舗改裝修繕費が増加
その他費用	16,669	16,660	+9	100.1%	
営業外損益	124	187	▲63	66.3%	
経常利益	1,698	1,327	+371	128.0%	

※パチンコ事業の中核会社（ダイナム）の日本基準での中間決算数値

2. 中間期業績ハイライト② （基幹会社ダイナム）

項目	当中間期	前中間期	増減	概要
店舗数	397店舗	396店舗	+ 1 店舗	開店 7 : 愛媛四国中央店 M&Aにより 6 店舗取得 閉店 6 : 七日町店、北越谷店、新発田店、 酒田広野店、岩船店、名取店
パチンコ稼働率 (※①)	28.5%	29.8%	▲ 1.3pt	競合店差 + 2.9pt (※②)
スロット稼働率 (※①)	28.6%	22.0%	+ 6.6pt	競合店差 ▲ 2.7pt (※②)
総設置台数	191,577台	186,113台	+ 5,464台	設置台数業界シェア 5.4%
スマートパチンコ設置台数	2,283台	0台	+ 2,283台	パチンコ設置総台数に占める割合 1.8%
スマートスロット設置台数	13,064台	0台	+ 13,064台	スロット設置総台数に占める割合 21.2%
P B 機設置台数	12,430台	15,741台	▲ 3,311台	設置割合 9.6% (前年同期差 ▲ 2.5pt) (※③)

※① 稼働率・・・ピーク時（15時及び19時平均）の[実客数 / 設置台数] 2023年4月1日～2023年9月30日の平均

※② 競合店の数値は全国のダイナム店舗近隣に所在する約1,200店舗に対して実施する客数調査をもとに算出

※③ 設置割合はパチンコ設置台数に対する割合

【目次】

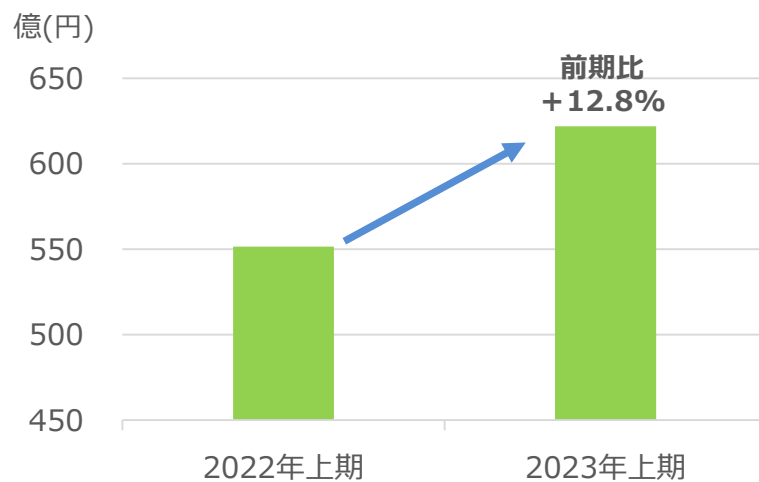
1. 中間期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 中間期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

3. パチンコ事業

(1) 事業収入（パチンコ・スロット）の推移

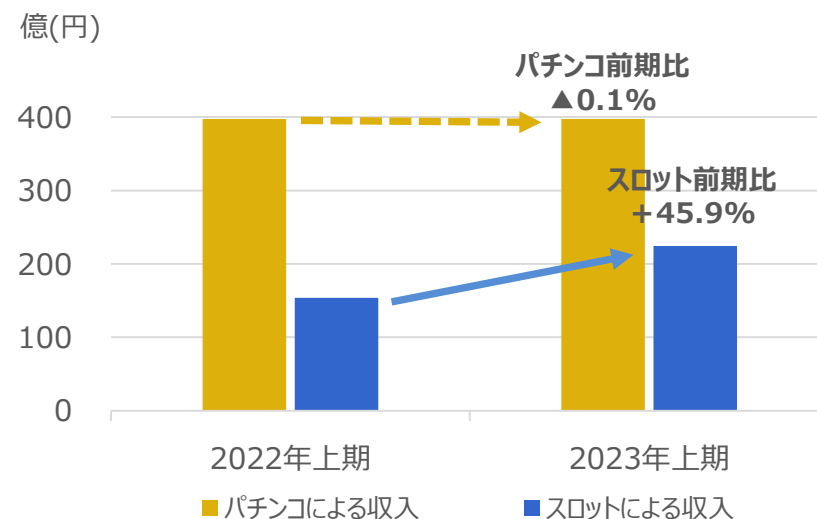
- スマートスロットにおいて新規則に対応した複数の人気機種が台頭したことにより大幅な増収で着地。
- 2022年11月の「スマートスロット」導入を契機にスロットトレンドが到来。
スロット収入が大幅に伸長し全体の増収に貢献。
- スロットトレンドに沿った営業継続により、さらなる増収を企図。

事業収入（パチンコ・スロット合計）



事業収入（PS計） 551.4億円 → 621.8億円（+12.8%）

事業収入（パチンコ・スロット別）



スロットによる収入 153.9億円 → 224.5億円（+45.9%）

3. パチンコ事業

(2) 次世代遊技機「スマート遊技機」の登場により、業界全体が活性化

●スマート遊技機とは

- ① メダルや玉に直接触れることなく遊ぶことができる遊技機。
パチンコは玉が遊技機内で循環、スロットはメダルを使用せず、出玉情報はいずれも電子情報として保存。
- ② 遊技機設置情報や出玉情報が遊技機メーカー組合が設置する「遊技機情報センター」へ送付され一元管理されることで業界の健全化を推進。

●様々なメリットが発生



【スマートスロット】
2022年11月導入

【スマートパチンコ】
2023年4月導入

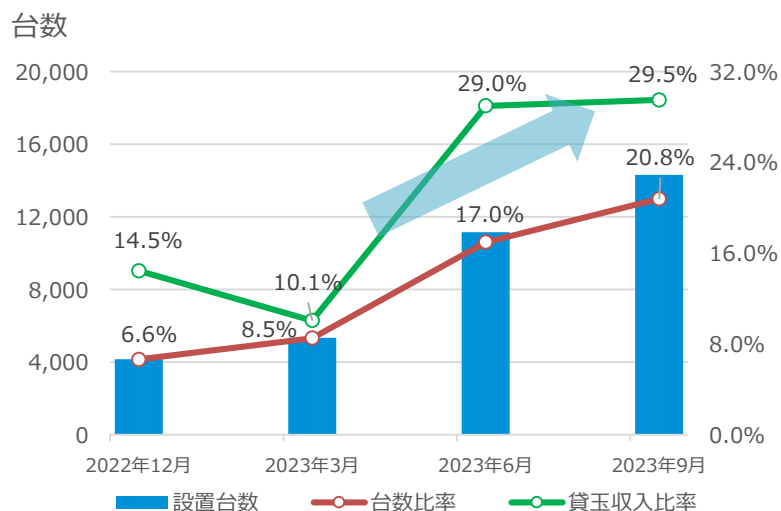
ユーザーのメリット	ホールのメリット	業界の健全化
☐ 獲得出玉・メダルの規制緩和による遊技機スペックの大幅な向上 ☐ 玉・メダルレスとなることによる利便と感染症対策への安心感向上 遊技人口の増加期待	☐ 玉・メダルの持ち運び・洗浄が不要 ローコストオペレーションの推進 ☐ 島設備（補給機装置等）が不要 新規店舗のインシャルコスト削減 既存店舗のランニングコスト削減 店づくりの新しい可能性の広がり	☐ セキュリティ強化と不正遊技の撲滅 ☐ パチンコ依存問題対策の強化 業界の社会的信用の向上

3. パチンコ事業

(3) スマート遊技機の導入実績と成長投資

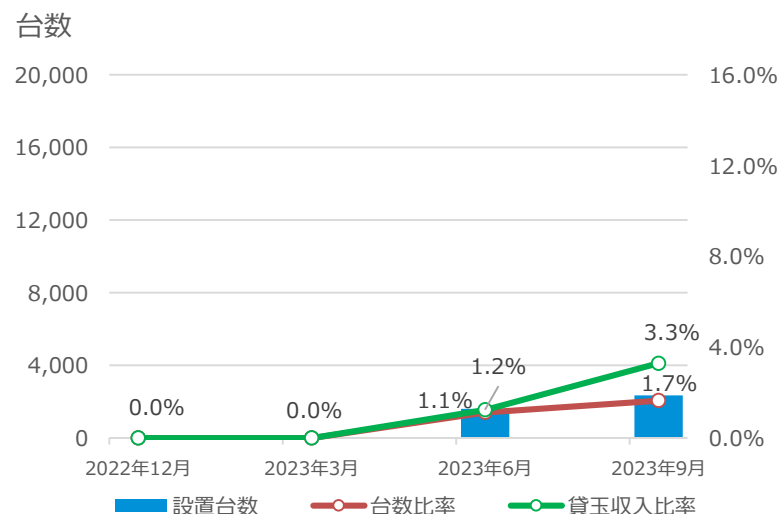
- 2022年11月より導入が開始された「スマートスロット」は、現在14,312台の設置。
スロット内の台数比率は20.8%まで拡大しており、好調な実績で推移。
- 2023年4月より導入が開始された「スマートパチンコ」は、現在2,351台の設置。
パチンコ内の台数比率は1.7%に留まる状況。
当面は、スマート機普及をけん引するスマートスロットへの投資を継続し、収益力向上を企図。

スマートスロット_導入実績



スマートスロット台数 3月末5,337台→9月末14,312台

スマートパチンコ_導入実績



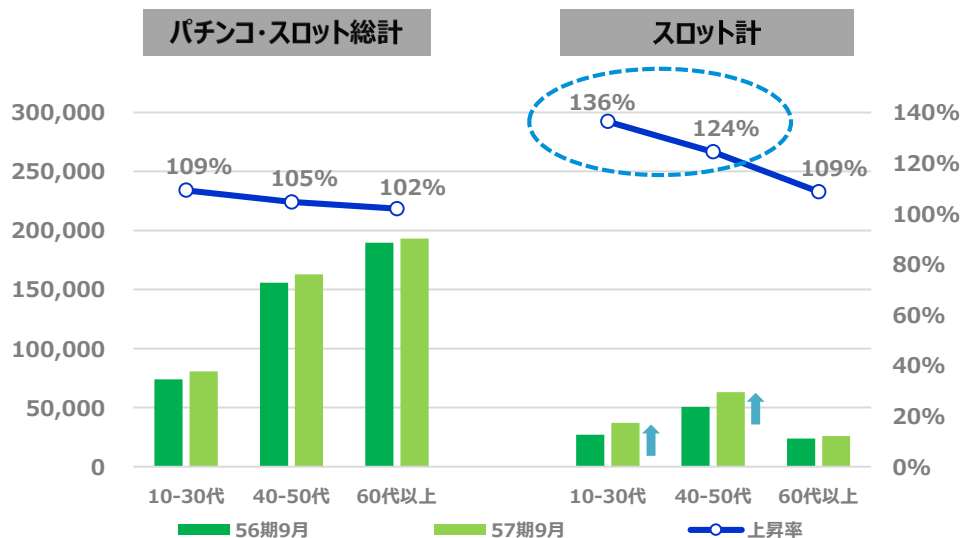
スマートパチンコ台数 3月末0台→9月末2,351台

3. パチンコ事業

(4) 今後の成長戦略

- スマート遊技機への投資強化による収入増加
- 既存店の大規模リニューアルを通じた旗艦店の収益力向上
- 新規ユーザーの獲得（幅広い年代層の開拓）
- 積極的なM&Aの継続による店舗数の拡大

スロット年代別客数（前期比）



スマートスロットの普及により、スロットの若中年の客層が大きく上昇。

幅広い客層に支持される店舗づくり

スマート機の台頭により新規開拓の可能性が広がる

【情報】

新規ユーザーの獲得に向けて、パチンコ、スロットの遊び方から楽しさを伝える情報提供の強化。

【スマート機投資】

スマート機の優先確保と顧客ニーズに即した商品構成の提供。

【環境】

リニューアルによる既存店舗の環境整備を推進。スマート機による新たな遊技環境提案や大規模リニューアル等、新規開拓に向けた投資を実施。

【目次】

1. 中間期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 中間期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

4. 航空機リース事業

業績ハイライト（百万円）

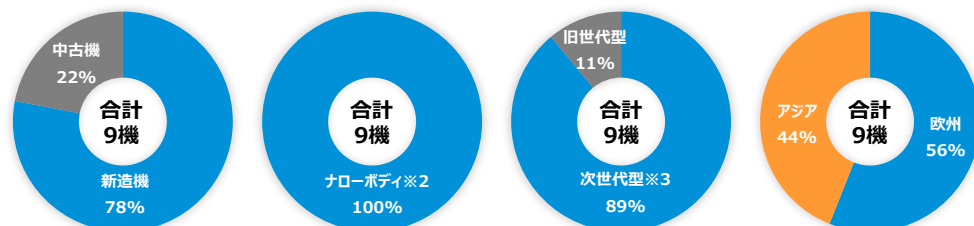
	当中間期	前中間期	増減
リース収入	2,188	1,045	+1,143
中間利益	515	139	+376
航空機資産残高	72,437	28,249	+44,188

航空機資産の保有状況

	当中間期末	前期末	前中間期末
保有・管理機体（機）	13	6	4
保有	9	6	4
管理	4	0	0
平均機齢（年）	1.7	2.1	2.5
平均リース期間（年）	5.8	5.3	4.5
平均利回り（%）※1	8.2	8.1	8.3

- アウトソースしていた航空機リース管理業務を内製化する体制を整備。
- 航空機リース管理サービスの提供を開始。航空機資産残高の積上げおよび上記フィー収入の獲得による利益拡大を企図。
- 中間利益は、リース収入の増加を主因に前年同期比増益。
- 当中間期末に保有・管理する機体は13機。当期末には17機となる見込。
- 保有する機体は機齢が若く、長期のリース期間を有する次世代型のナローボディ機。
- リース先エアラインは欧州とアジアのLCC。

航空機資産タイプ別・地域別内訳（保有機）



※1 表面利回り、年換算

※2 主に国内線や域内で使用される狭胴型の単通路機（エアバス社のA320シリーズやボーイング社のB737シリーズ）

※3 燃費効率の良いエンジン（ブラット・アンド・ホイットニー社のPW1100GやCFMインターナショナル社のLeap）を搭載した機体

4. 航空機リース事業

<今後の成長戦略>

■ 航空機資産残高の増加

次世代型ナローボディ機を中心に航空機を購入し、優良エアラインにリースすることで利益を拡大。

■ ポートフォリオの分散

保有機体数の増加に伴い、機種、機齢、リース期間、リース先エアラインや地域などポートフォリオの分散化を図り、リスクをコントロール。

■ 航空機リースに関連する各種サービスの提供

内製化した航空機リース管理機能を活用し、他社へ各種サービス（航空機の調達、リース管理、再リース、助言・提案、市場動向やノウハウ）を提供しフィー収入を獲得。

4. その他事業～カジノ向けビデオスロットの開発～

マカオ市場

(単位：億円)

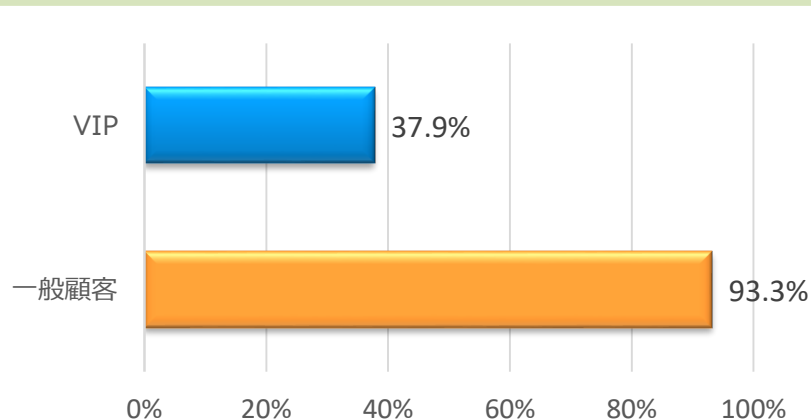
		2023年(1-9月)	2022年(1-9月)	増減	2022年比	コロナ前(2019年)比
カジノ総粗利		23,906	5,899	+18,007	405.2%	58.5%
内訳	VIP	6,023	1,480	+4,543	407.0%	31.6%
	一般顧客	17,883	4,419	+13,464	404.7%	82.2%

1MOP = 18.54円で算出

出典：DICJホームページ（マカオゲーミング管理部門）ゲーミングの月間総粗利の数値を基に作成

2023年から入境規制が全面的に解除され入境者数が大幅増加。 カジノ総粗利は2019年比で58.5%まで回復。

直近3ヵ月(7-9月)のカジノ総粗利 コロナ前比



・ 当局によるジャンケット*規制強化により、VIPによるカジノ総粗利の回復は限定的な状態が継続。

・ カジノオペレーターは一般顧客向けサービスを強化しており、直近3ヵ月の総粗利はコロナ前比93.3%まで回復。

・ DYJHの開発した一般顧客向けコンセプトのマシンは今後の市場トレンドと合致。

・ 現在マカオの大手カジノオペレーターとトライアル開始の条件等について交渉中。

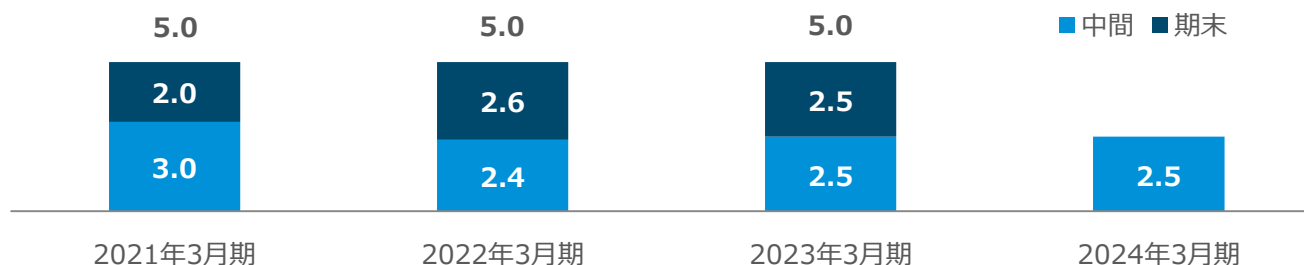
*富裕層を対象に誘客、カジノでの資金貸付等を行う業者

中間配当金 1株当たり配当金 2.5円

■ 配当額

	当期中間配当	前期中間配当	前期期末配当
配当基準日	2023年12月14日	2022年12月13日	2023年6月5日
1株当たり配当金	2.5円	2.5円	2.5円
配当金総額	1,762百万円	1,791百万円	1,783百万円
配当金支払日	2024年1月12日	2023年1月13日	2023年6月23日

■ 1株当たり配当金推移（単位：円）



（参考）当中間期において、自己株式 7,688,600株（発行済株式の約1.1%）の市場買付を実施。

【目次】

1. 中間期業績ハイライト①（グループ連結）
2. 中間期業績ハイライト②（基幹会社ダイナム）
3. パチンコ事業
4. 航空機リース事業・その他事業
5. 財務概況

5. 財務概況

連結損益計算書 (IFRS)

(単位：百万円)

	当中間期 (2023/9)	前中間期 (2022/9)	増減	補足説明
営業収入	64,375	56,195	+8,180	
パチンコ事業収入	62,187	55,150	+7,037	高貸玉店舗 29,246(+2,187) 低貸玉店舗 32,941(+4,850)
航空機リース事業収入	2,188	1,045	+1,143	
パチンコ事業費用	59,208	52,246	+6,962	遊技機償却費の増加 +5,990 水道光熱費の増加 +320 店舗運営人件費の減少 ▲209 修繕費の増加 +687
航空機リース事業費用	1,322	669	+653	
一般管理費	2,144	2,048	+96	
その他収入	3,963	4,950	▲987	前中間期：長野飯田店 立退補償金(リニア)受取 817
その他費用	1,264	2,301	▲1,037	店舗減損損失の減少 ▲651
営業利益	4,400	3,881	+519	
金融収益	419	173	+246	
金融費用	1,895	1,736	+159	
税引前中間利益	2,924	2,318	+606	
中間利益	1,874	1,183	+691	
EBITDA	26,763	19,939	+6,824	

(注) EBITDA は、中間利益に金融費用、税金、減価償却費(使用権資産償却費を除く)、為替差損益を加えて計算しております。

5. 財務概況

連結財政状態計算書（IFRS）

（単位：百万円）

	当中間期末 (2023/9)	前期末 (2023/3)	増減	当中間期末の主な内訳・前期末からの増減等			
				科目	当中間期末	前期末	増減
資産合計	354,117	325,608	+ 28,509	航空機	72,437	41,130	+ 31,307
				遊技機	35,814	36,281	▲ 467
				その他有形固定資産	71,328	69,465	+ 1,863
				使用権資産	83,866	76,741	+ 7,125
				現金及び預金	44,090	59,605	▲ 15,515
負債合計	221,682	197,181	+ 24,501	リース負債	98,767	91,697	+ 7,070
				未払金・未払費用	14,390	14,732	▲ 342
				有利子負債	87,607	72,167	+ 15,440
資本金	15,000	15,000	-				
剰余金等	117,435	113,427	+ 4,008	中間/当期利益(親会社帰属利益)	1,873	1,806	+ 67
				前期期末配当支払額	▲ 1,783	▲ 3,669	+ 1,886
資本合計	132,435	128,427	+ 4,008	連結自己資本比率	37.4%	39.4%	▲ 2.0
負債及び資本合計	354,117	325,608	+ 28,509				

連結有利子負債及び自己資本比率（IFRS）

（単位：百万円）

【連結有利子負債】

	当中間期末 (2023/9)	比率	前期末 (2023/3)	比率
現金及び預金	44,090	12.5%	59,605	18.3%
有利子負債合計	87,607	24.7%	72,167	22.2%
有利子負債(リコースローン)	43,733	12.3%	47,090	14.5%
有利子負債(ノンリコースローン)	43,874	12.4%	25,077	7.7%
ネットキャッシュ	▲43,517	▲12.2%	▲12,562	▲3.9%
資産合計	354,117	100.0%	325,608	100.0%

【連結自己資本比率】

	当中間期末 (2023/9)	比率	前期末 (2023/3)	比率
資本金	15,000	4.2%	15,000	4.6%
剰余金等	117,435	33.2%	113,427	34.8%
資本合計	132,435	37.4%	128,427	39.4%
資産合計	354,117	100.0%	325,608	100.0%

基幹会社ダイナムの概況（日本基準で決算実施）

（単位：百万円）

	当中間期 (2023/9)	前中間期 (2022/9)	増減	補足説明
遊技業収入	56,862	50,497	+6,365	前期比増減 P : +52 S : +6,312
自販機手数料収入	1,651	1,408	+243	
販売費及び一般管理費	56,939	50,765	+6,174	機械関連費用 +5,624 人件費▲464 水道光熱費 +322 修繕費 +683
営業利益	1,574	1,140	+434	
経常利益	1,698	1,327	+371	
特別利益	-	818	▲818	前中間期：長野飯田店 立退補償金(リニア)受取 817
特別損失	20	242	▲222	
中間利益	1,038	1,226	▲188	

	当中間期末 (2023/9)	前期末 (2023/3)	増減	補足説明
総資産	139,492	141,312	▲1,820	
負債	54,621	55,829	▲1,208	
純資産	84,871	85,483	▲612	中間利益 + 1,038 親会社への配当支払▲1,791
自己資本比率	60.8%	60.5%	+0.3	

免責事項と著作権について

この資料に掲載されている今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生などにより、本資料掲載の見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられる情報につきましては開示に努めて参りますが、本資料掲載の見通しのみに全面的に依拠してご判断されることは、くれぐれもお控えいただきますようお願い致します。

なお、いかなる目的であっても、当社の事前の同意がない限り、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

(株) ダイナムジャパンホールディングス 財務・広報グループ

mail : info@dyjh.co.jp